

天声人語

きのうの小欄で、公民権運動の指導者キング牧師に触れた。黒人の権利を求める運動の始まりにいたのが、米アラバマ州の黒人女性ローザ・パークスさんだった。1955年、バスで白人に席を譲るのを拒んだ▼「さつさとその席を空けたほうが身のためだぞ」と運転手に言われて、周りの黒人たちは従つた。それでも座り続けたため、警察に通報され逮捕された。毅然とした行動的理由が自伝にある。「私たちがいいなりになればなるほど、彼らの扱いはひどくなるばかりだったのです」▼置かれた環境も、問題の質も違う。しかし、この行動も、かなりの決意が必要だったのではないか。テレビ朝日の女性社員である▼同社によると女性社員は、財務事務次官のセクハラ発言をテレビで報道すべきだと主張したが果たせず、週刊新潮に持ち込んだ。責任の重い人物の行為が表に出なければ「今後もセクハラ被害が黙認され続けるのではないか」と考えたという。悩んだ末の選択だったと想像する▼セクハラは暴力だと戒められるようになり、長い年月がたつた。企業や団体でルールが設けられ、相談窓口もできた。しかし私たちには、それをどこまで血肉化してきただろう。被害者に名乗り出るよう求めた財務省の姿勢は、日本社会の悲しい戯画である▼米国ではパークスさんの行動を引き金にバス乗車ボイコット運動が起こり、大きなうねりになった。最初は点だった動きが線になり、面になることがある。そのとき、時代は変わる。

2018・4・20